

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101687		
法人名	有限会社 マインド		
事業所名	グループホーム 愛の郷 (ほまれ・のぞみ)		
所在地	〒751-0809 山口県下関市一宮東町3丁目380-1 TEL 083-263-3900		
自己評価作成日	令和07年01月24日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	TEL	093-582-0294
訪問調査日	令和07年02月22日	評価結果確定日	令和07年03月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1.当施設では、利用者の方にラドン泉を満喫して頂いている。
2.季節の変化を五感で感じて頂き、静かな環境の中、ゆっくり利用者の方のペースで日常生活を送っていただいている。
3.利用者一人ひとりの笑顔を大切に、地域の一人として毎日の生活を安心して過ごして頂けるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「愛の郷」は、下関市郊外の自然が残る環境の中で21年前に開設した、2ユニット定員18名のグループホームである。自治会に加入し地域の行事や活動の情報を得て行事に参加し、地域交流の輪が少しずつ広がっている。身体拘束適正化委員会を定期的に開催し、職員研修を開催して職員間で、身体拘束が利用者にあぼす弊害について学ぶ機会を得て、身体拘束をしない介護の実践に取り組んでいる。新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら、家族の面会を緩和し、利用者と居室でゆっくり話が出来る支援に取り組んでいる。管理者と職員はチーム介護に取り組み、利用者が明るい笑顔で会話する様子を見守る家族の喜びは深く、利用者や家族と信頼関係を築いている、グループホーム「愛の郷」である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をホール・事務所に掲示して職員と一緒に共有する事で実践に繋がるように努めている。理念を記した歌を利用者と共に唄い実践につなげていけるように努めている。	ホームが目指す介護理念を見やすい場所に掲示し、理念を分かりやすい歌詞にした歌(2曲)を、申し送り時に利用者と職員と一緒に歌い理念を共有している。職員会議を兼ねた研修の中で理念について職員間で話し合い、理念に基づいた介護サービスに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はなく、例年であれば地域行事(夏祭り)に参加したり幼稚園児との交流や民生委員の方の歌を事業所内で披露して頂いていたが現在は感染予防の為、交流が出来ていない。	自治会に加入し、地域の情報や活動の情報を得て参加できる行事に利用者と一緒に出席している。買い物や散歩時に地域の方と挨拶したり、世間話をして交流を図っている。近所の方から花や野菜の差し入れがあり、地域交流が少しずつ広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設で起きた事例をもとに、認知症の理解・協力を努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	一部の役員以外の職員に自己評価を実施している。また、評価をもとに課題を再度確認し、改善点を考え、より良いケアに繋がるように取り組んでいる。	管理者は外部評価の意義や目的を職員に説明し、評価結果表を配布してわかることを記入してもらい、管理者がまとめて提出している。評価結果を職員間で話し合い、ホーム運営や業務改善、利用者の介護サービスの提供に反映させている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防の為、運営推進会議は行っていない期間も入居者の状況や行事報告等を行い、開催可能になってから、2か月に一回開催し、入居状況や日常の様子、行事報告を行っている。行事についてアドバイスもあり、意見をもとに職員間で話し合いを実現出来るように努めている。会議の内容についてはホールに掲示し誰でも見られるようにし情報を共有している。	新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら、会議を対面で開催し、ホームの運営や取り組み、利用者状況、ヒヤリハット、事故等を報告し、参加委員からは、意見や質問、情報等の提供を受けて話し合い、介護サービスの向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	提出書類等、運営上の疑問が生じた場合は、電話や直接出向く等して相談や助言を頂いている。	管理者は介護の疑問点や困難事例を行政窓口相談し、アドバイスや情報提供を受けている。運営推進会議に行政職員が出席し、ホームの現状を理解して、意見交換や情報交換して連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正面玄関に直面している道路は、交通量が多く安全確保の為、玄関に鍵をしているが時間帯に応じて施錠しないように取り組みをしている。また内部研修にて身体拘束について理解が出来るよう努めている。	「身体拘束適正化の指針」に基づいた内部研修会を定期的に開催し、身体拘束が利用者に及ぼす弊害を職員が理解し、身体拘束をしない・させない介護の実践に取り組んでいる。特に言葉遣いや対応には注意して、利用者がホームの中で安心して安全に過ごせるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会資料をもとに内部研修を行い、対応方法や、防止策等について学ぶ機会を作っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者の方がいる為、資料を事業所内に置き、いつでも見ることが出来るようにしている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に苦情窓口についての説明を行っている。意見箱を設置することで家族からの意見を確認している。又、意見等については職員にも報告し運営に反映できるように心がけている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に十分に時間をとり説明を行い質問にも応じている。安心して利用をして頂くために疑問等あれば、その都度対応し理解を得るようにしている。	苦情受付窓口や外部の苦情相談窓口をホーム内に掲示している。利用者の思いや意向を職員が把握し、家族面会時に報告し、家族の意見や要望、心配な事を聴き取り、ホーム運営や利用者の日常介護に反映出来るように取り組んでいる。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、月例会を行い、日常の業務について職員の意見を聞くようにしている。	毎月職員会議を開催し、職員の意見や要望を話し合い、利用者本位の介護サービスの提供を目指している。管理者は職員の意見や要望、提案が出しやすい雰囲気づくりに取り組み、出された職員の意見は、ホーム運営や取り組み、利用者の介護サービスに反映出来るように取り組んでいる。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時には、事前に希望休を確認。利用者や職員の状況に応じ、就業時間、補助等の調節を他職員の協力のもと実施している。外部研修は勤務の一環として行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数やスキルに応じて、出来る限り研修の機会を作るようにしている。	コロナ状況を判断しながら、外部研修に職員の習熟度や経験に合わせて参加してもらい、職員一人ひとりの介護技術や知識の向上に取り組んでいる。また、資格取得を奨励し、職員一人ひとりが意識の高揚に努めている。また管理者は、職員と人事考課に取り組み、職員が意欲的に働ける職場を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟しブロックの研修会等で交流を図っていけるように努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前の面談時に本人や家族の方に話を伺い、本人が置かれている状況が理解できるように努めている。思いを受け止め、安心して頂くことで信頼関係が築いていけるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話等で家族と会話する時間を作り、話を傾聴する事で家族の思いを知り寄り添う事で、いつでも相談が出来るような人間関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に得た情報や本人・家族との会話からニーズを見極め、優先順位を考えながらサービスの対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の些細な会話の中から本人の思いを見つける様に努めている。共に過ごし共に考えていける関係性を築けるように努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染予防の為、行事参加や外出等を行っていないが、通院は家族、利用者との交流が図れるように協力をお願いしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染予防の為、面会を玄関先で行って頂いたり、手紙や電話での交流が出来るように支援を努めている。	新型コロナ5類移行に伴い、家族の面会を緩和し、電話や手紙を活用して馴染みの関係が継続出来るように支援している。コロナ状況を判断しながら買い物や花見等に出かけられるように検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性を把握し、席を配置する事で孤立することがないように、職員も会話の中に入り利用者同士が交流を図れるように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて本人や家族の相談に応じれるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活上の会話から本人の訴えや行動を記録し、毎月の月例会やカンファレンスの際に具体策を決定し実践している。	日常生活の中から職員は、利用者の思いや意向を聴き取り、日常介護に反映出来るように支援している。意向表出が困難な利用者には、家族に相談したり、職員間で話し合い、職員が利用者寄り添い、優しく話かけ、利用者の思いをくみ取り取っている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族やケアマネジャー、利用者から情報を収集しフェイスシートを作成、入居前の様子が把握出来る様に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス提供記録、健康チェック表をもとに、利用者1人1人の1日の様子を把握するようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、担当職員を中心に、ケアカンファレンスを行い、計画作成担当者、職員、本人、家族の意見を介護計画に反映し現状に即したプランを作成している。	担当職員は利用者や家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望を聴き取り、カンファレンスやモニタリングで検討し、利用者本位の介護計画を定期的に作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、利用者の状態変化に合わせて介護計画の見直しを行っている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を作成し、日々の様子や実践結果、利用者の反応等を記録し職員同士で情報共有している。記録については、出勤時に職員は目を通すようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、医師の指示のもと施設の看護師が必要とする処置や内服調整を行っている。ビューティーヘルパー訪問により整髪をしたり家族の支援が得られない方は受診の支援を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りへの参加の声掛けを頂いたり、利用者の方が毎日楽しく暮らしていける様に努めています。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の方の希望を尊重し主治医を決めている。馴染みの医師による継続医療を希望する場合は、情報を提供し適切な医療を受けられるように支援している。協力医療機関をかかりつけ医としている方は、月に2回訪問診療を受けており、受診記録に残すことで職員、家族と情報を共有できるように努めている。	利用者や家族の希望を優先して話し合い、主治医を決定している。かかりつけ医や他科受診は、家族対応でお願いしている。協力医療機関医師による月2回の往診と看護師、介護職員が連携し、24時間利用者の健康管理に取り組み、安心の医療体制が整っている。往診結果を家族に報告し、家族と職員がともに医療情報を共有している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も介護職員の一員として利用者の方と関わるようにし異常の早期発見に努めている。利用者の方の変化に気付いた際には、記録に残し相談をする事で必要時は受診が出来る様に努めている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族への経過報告や病院への情報提供を行っている。 入院中は、家族と連絡をとり情報交換を行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所で出来る対応について説明、同意を得ている。 重度化した場合は、家族の希望を確認した上で、医師、看護師、管理者に相談を行い今後の方針について検討している。	契約時に重度化や終末期の介護について方針を家族に説明し、理解を得ている。利用者の重度化が進むと家族と密に連携し主治医も交えて今後の方針を確認し、関係者と方針を共有して、利用者の終末期が安心して迎えられる支援体制を整えている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット、事故報告書を作成し、事故の原因を明確にするとともに再発防止策の検討を行っている。月例会議の際に再度、再発防止後の経過について話し合いを行っている。応急手当、初期対応の訓練については、まだ全職員が実践力を身につけているとは言えない為、訓練が必要である。	事故防止マニュアルや発生時の対応について職員間で常に話し合い、事故発生時に職員が慌てないように取り組んでいる。また、応急手当や初期対応については、職員全員が対応出来るように、日常的に訓練を行い、職員一人ひとりが冷静に素早く対応出来る取り組みを目指している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練や勉強会を行っているが全職員が避難方法を身につける所まで至っておらず、火災以外の訓練についても出来ていない。水害時の避難方法は消防署から指示を受けている。	避難訓練を年2回昼夜想定で実施し、消火器や通報装置の使い方を確認し、非常口、避難経路、避難場所を確保して利用者が安全に避難出来る訓練を目指している。水害や地震、台風などの訓練が実施できていないので今後の検討課題である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者一人ひとりが人生の先輩である事を考えて敬意をもった言葉かけで対応している。言葉かけの仕方について気になる事があれば職員同士で注意しあうようにしている。	利用者ひとり一人の人格の尊重とプライバシーの確保について、職員間で話し合い、言葉遣いや対応に注意している。特にトイレや入浴介助では利用者のプライドや羞恥心に配慮した取り組みを目指している。利用者の個人情報の管理や職員の守秘義務については、管理者が職員に常に説明している。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者により個人差はあるが、ゆっくり話をする時間を作り、本人の思いや希望を聞き、記録に残す事で情報を共有しケアにつなげていけるように努めている。			
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日一日利用者のペースを大切にしている。利用者とは話す時間を作り、その人らしく生活を送る事が出来る様に支援している。			
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回ビューティーヘルパーの訪問を受けており、散髪や髪染めの希望を毎月利用者に確認し行っている。男性は髭剃り、女性はお化粧をする事で身だしなみを整え、おしゃれが出来るように支援している。			
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力によって食事の下ごしらえや盛り付けを手伝って頂き、料理の楽しみを作っている。施設の畑で収穫した野菜を使って料理を作ったり、利用者の誕生日には本人が食べたい料理を作ってお祝いをしている。	利用者が楽しみにしている食事は、栄養バランスの取れた配食サービスを利用し、彩や盛り付けに工夫している。利用者の残存能力に合わせて、茶碗拭きや後片付けを手伝ってもらい、利用者の生きがいに繋げている。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活リズムパターンシートを活用し食事量や水分量を記録の上、確認している。体重測定を定期的に行い、状況に応じて医師に相談をしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、清潔が保てるようにしている。拒否の強い方はうがいを促している。また、状況に応じ、歯科受診(往診)を依頼しケアの仕方について指示を仰いでいる。			
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活リズムパターンシートを活用しながら、排泄のリズムを確認するようにしている。トイレでの排泄が困難な方に関しては声かけや誘導の工夫をしながらトイレでの排泄対応を行っている。	職員は利用者の排泄パターンを把握し、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行い、利用者が重度化してもトイレで排泄が出来る支援に取り組んでいる。夜間は利用者の希望や体調に配慮して、トイレ誘導やパット、リハビリパンツ、オムツ等を使い分け、利用者が安心して過ごせる環境整備に取り組んでいる。		
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の体重から1日の必要水分摂取量を計算し、目標摂取量分の水分を促している。便秘傾向の方は、医師、看護師へ相談し内服での排便調節を行っている。			
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前または午後に、利用者の状況に応じて入浴を行っている。入浴を拒否される方に対しては、時間をかけて気持ちの配慮を行い対応の仕方を工夫する事で入浴できるように支援している。	入浴は利用者の体調や希望を聴きながら支援し、湯船にゆっくり浸かってもらえるように取り組んでいる。入浴を拒む利用者には、時間を変更したり、職員が変わったりして対応し、無理な場合は、清拭や足浴に変更し、無理強いのない入浴支援に取り組んでいる。		
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムパターンシートを活用し、睡眠パターンの把握をしている。昨夜不眠の方、倦怠感がある方に関しては、昼夜問わず自室で休憩を促し、ゆっくりとして頂いている。			
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬表と薬情を一緒にファイルにセットし、いつでも内容を確認できるようにしている。薬の変更時は、ノートに記録し情報を共有する事で状態の変化を観察し医師、看護師に報告するようにしている。			
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や特技を活かし、毎日楽しく生活を送る事が出来るよう、個々の能力に応じた役割を作っている。	利用者の特技や能力を職員が把握し、季節の行事の手伝いや清掃、食事の手伝いや後片付け、洗濯物干しやたたみ、テレビ体操等に利用者が参加し、利用者が活躍できる場面や楽しみ事の支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防の為、外出支援は行えていない。	新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら、少しずつ外出が出来る支援に取り組んでいる。天気の良い日は、敷地内を散歩し、ひまわりやコスモスを眺めながら、畑で水やりや草取りを行い、サツマイモやきゅうり、トマトなどの収穫を利用者と職員が楽しんでいる。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理の難しい方に関しては、買い物をする際に職員がお金を手渡し支払いをして頂いている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不安感の強い時や本人が電話を希望された際は、状況に応じて電話の使用が出来る様に対応している。また、年賀状での手紙のやり取りも行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わって頂く為に、ホールに花を飾ったり行事の写真を飾ったりしている。 居室やトイレは、分かりやすいように表札や張り紙を貼っている。 心地よく過ごせるよう空調や彩光調整を行うようにしている。	ウッドデッキからは木々の緑を眺めながら季節を感じ取り、リビングルームは天井が高く、壁面には利用者の楽しい外出や室内レクリエーションの写真を飾り、壁面飾りや紙細工を掲示し、家庭的で明るい雰囲気的生活空間である。室内は温度や湿度、換気に注意し、快適な環境である。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファや椅子を設置し、ゆっくりとくつろげるスペースを作っている。 テーブルの位置や椅子の配置を工夫し、利用者同士の関係性に配慮した環境作りに努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険となるもの以外は、利用者の慣れ親しんだ物を持ち込んで頂いている。 家族写真や愛用の物を置く事で安心して過ごせる空間作りに努めている。	利用者が長年使い慣れた家具や寝具、テレビ、時計、鏡、家族の写真等を持ち込み、利用者が安心して穏やかに過ごせる環境を整え、利用者が自分の部屋として生活出来るように支援している。室内は清掃が行き届き、清潔で明るい居心地の良い居室である。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握し、出来る限り安全で自立した生活を送る事が出来る様に工夫している。		